



6月26日（土）、「犬山のまちづくり『市民活動』と『地域活動』を考えるワークショップ」の第1回をオンラインで行いました。参加者は19名、オンライン環境がない方向けのサテライト会場には6名が参加しました。

このワークショップでは、協働のまちづくり基本条例で目指す「持続可能なまち」をイメージし、テーマを目的とした「市民活動」と地縁による「地域活動」が果たす役割とその支援について考えるもので、最終的には基本条例で委任されている「市民活動、地域活動の支援」と「市民参加」についての規定を、「犬山市市民活動支援条例」の見直しも含めて規定していくことを目指します。その初回となる今回は、趣旨やスケジュールなどの説明後、ミニレクチャーとして中京大学講師の加藤武志さんから、そもそもの市民活動、地域活動の成り立ちから、SDGsの世界的な動きがあること、コロナ禍が露わにしたことについての話がありました。

続いてのブレイクアウトセッションでは、「持続可能なまちってどんなまち？」というテーマで意見交換を行い、グループごとに対話した内容を発表しました。お互いをなんとなく知ってはいても、普段なかなか話さない深い話し合いが見られ、今後の犬山のまちづくりを考える、貴重な機会となりました。

6月26日（土）オンライン（Zoom ミーティング）

【第1回のテーマ】 「持続可能なまち」って どんなまち？

1

はじめに

あいさつ & 趣旨説明

2

ミニレクチャー

～あなたの参加が未来を変える～

おしながき

1. はじめに
2. ミニレクチャー
3. グループごとにディスカッション
4. 全体共有
5. まとめ

市民活動って？

- かつては自治の原型として、必要不可欠なものだったんです。
- そういった意味では、正しいからではなく、「おトクだから」人の心や体は動きます。
- 民間で公の活動を行う「市民活動」という名前は、後から付いたんですね。

SDGsって？ & With コロナ

- SDGsの本質を2つだけ紹介すると、
 - ①世界はつながっている、そして私も起点で、コトを起すことができる。
 - ②見える化し、共有することによって、行動が変わる。ということで、まちづくりの根幹に一致しているんです。
- コロナ禍にも共通したところがあって、様々な気づきや活かせそうなことを明らかにしてくれた出来事の一つだったのではないのでしょうか？

価値創造型のまちづくり

- 相乗効果を生む「マルチパートナーシップ」や、未来の到達点から逆算して考える「バックキャスト」が重要と言われています。
- 周りの人いかに「自分事」になってもらうか。一緒に未来の種を撒けば、明日は変えられます。



中京大学講師
加藤武志さん(たけぞー)

3

グループごとにディスカッション

それぞれの「持続可能なまち」を持ち寄ろう！

4

全体共有

持続可能なまちってこんなまち

<p>人を作っていくこと、人を育てること、市民活動の楽しさ、おトク感というのを広げていくことが大切だという話があった。持続可能なまちと言われて、一般の人は「持続可能に決まってるじゃん。犬山って持続不可能なの？」と逆に思ってしまうのではないか。生活の中の問題や課題を「見える化」できる場があればいいという意見が出た。</p> <p style="text-align: right;">A Group</p>	<p>自分たちの活動などは、コロナ禍のこういう時に続かないと、そもそも持続しないんじゃないかという話になった。その中で、グループや地域の外との関係性を持つことや、次世代の担い手のメリットを考えると、思いや火を消さないように声をかけ続けることが大切だという意見が出た。</p> <p style="text-align: right;">B Group</p>
<p style="text-align: right;">C Group</p> <p>まちづくり活動に、若者が活躍できる場面は何かを考えて取り込むことや、現役世代である 30 代～40 代にも働きかけ、巻き込んでいくことが必要であるという話が出た。世代間交流を活性化し、精神的なおトク感で地域をつなげることで、持続可能なまちになっていくのではという話でまとまった。</p>	<p style="text-align: right;">D Group</p> <p>この地域にずっと居れる、出たとしても戻ってこれる“まち”を中心に話した。コミュニケーションを図るという前提で、子どもが帰ってきやすい、やさしさ思いやりがある、仕事や楽しみがある、という 3 点があれば、“まち”は継続していくのではないかという話でまとまった。</p>



▲サテライト会場の犬山市協働プラザ「わんまるーむ」

サテライト Group

買物や移動など、地域での困りごとをどうしていけばいいかという話から、こういった顔の見える横のつながりが生まれてくる場が大事だという話があった。

また、お金じゃないおトク感って何だろう？と考えると、それは「人脈」ではないか。顔の見える関係性から人脈が広がることで、問題の解決にもつながり、おトク感も感じられるのではという意見が出た。

5

まとめ

講師(たけぞー)からのコメント

各グループごとでも魅力的な対話がたくさんあり、してもらったことや与えてもらったことが、自然と巡っていく連鎖、世代を超えて次につながっていく、という話が印象的でした。また、自分の生活さえ良ければという人が大半の中で、やはり当事者になるスイッチが重要です。そのためには、自分に関わることで、何か変化が起こると分かってもらうことが大切。初回ですが、若い方からベテランまで、同じ場で話せたことがとてもステキだと思いました！



発行
&
連絡先

犬山市役所 地域協働課 (担当：島内・田原)

TEL 0568-44-0349 (直通)

mail 010410@city.inuyama.lg.jp